

履修証明プログラム『大学変革リーダー育成プログラム (TLP)』(2019-2020) 科目開設スケジュール

【履修概要】

履修科目		時間
必修科目		60 時間
フィールドワーク	国内大学調査	15 時間
	海外現地調査 ¹	20 時間
アクションラーニング		70 時間
選択科目		15 時間
合計時間数		*180 時間

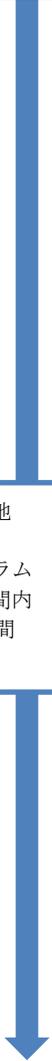
1：海外現地調査は原則必修ですが、やむを得ず渡航できない事情がある場合は理由書を提出し、認められた場合に限り選択科目**4科目の履修に振り替えることができます。

* 事前事後学習やレポート執筆の時間など、「授業外学習時間」も含まれます。

*各科目（セミナー・ワークショップ・動画など）の受講後にレポート課題に取り組み、毎月提出します。なお、各科目の履修時間 5.0 時間には、レポート執筆など授業外学習時間が含まれます。

開講時期	科目履修（必修 75 時間） （必修科目 60 時間及び選択科目 15 時間）				フィールドワーク （必修 35 時間）	アクションラーニング （必修 70 時間）
	科目名	講師	時間	概要		
2019 年 9 月 6 日・7 日 集中セミナーⅠ	対面 エンロールメント マネジメント	眞田 敏行 茨城大学 准教授	5.0*	エンロールメントマネジメント (EM) とは、学生の入学前から卒業後までの一連の学びの実態を把握し、支援へと結びつける米国の大学で生まれた学生マネジメント手法の一つです。日本の大学において、EM を進めるメリットは何でしょうか。本セミナーでは、EM の具体的な方法や課題などについて学びます。		インタラクティブ 課題研究Ⅰ プレゼンテーションⅠ 個人コンサルテーション
	対面 学生の学びを支える学習 支援	谷川 裕稔 四国大学 教授	5.0*	大学はユニバーサル時代を迎え、入学してくる学生はかつてないほど多様化しています。大学は、学生の学習意欲や学力の低下、学習困難などの問題にどう対処していけばよいのでしょうか。本ワークショップでは、学習支援の枠組みを確認し、学生の学びを支えるための体制づくりや教授学習方法の実践と課題について議論します。		

開講時期	科目履修（必修 75 時間） （必修科目 60 時間及び選択科目 15 時間）				フィールドワーク （必修 35 時間）	アクションラーニング （必修 70 時間）
	科目名	講師	時間	概要		
2019 年 10 月	動画 リーダーシップと意思決定	吉武 博通 筑波大学 教授 (収録時)	5.0*	大学を取り巻く環境が厳しさを増すなか、大学を経営・教学の両面でいかに戦略的かつ効果的に運営するかが問われています。重層的な組織構造をもつ大学において、その諸機能を十分に発揮させるにはいかなるリーダーシップと意思決定が必要なのかについて考えます。	国内大学 調査 プログラム 開設期間内 (1 年目を 推奨) 15 時間	
2019 年 11 月	動画 大学におけるカリキュラムマネジメント	杉谷 祐美子 青山学院大学 教授	5.0*	学士課程等における教育の「質保証」が求められるなか、教育目標達成のためのカリキュラムマネジメントの必要性が増しています。本セミナーでは、カリキュラムマネジメントの考え方を概観するとともに、教育目標を実現するために、いかに教育内容や方法を設計し運営していくのか、必要となるマネジメントのあり方について学びます。		
2019 年 12 月 6 日・7 日 集中セミナーII	対面 日本の高等教育政策	羽田 貴史 東北大学 名誉教授	5.0*	我が国の高等教育は 1990 年代以降、18 歳人口の縮減とグローバル化の進展を背景に多くの課題に直面し続けていますが、実際の高等教育政策は諸課題に対応できているのでしょうか。本セミナーでは、日本の高等教育政策に関する歴史的整理を踏まえつつ、現在の動向と今後の課題を読み解きます。		
	対面 世界の高等教育政策	杉本 和弘 東北大学 教授	5.0*	グローバル化が進行するなか、世界の高等教育には、質保証や市場化といった共通課題に向けた取り組みが求められています。本セミナーでは、欧州、米英豪、アジア太平洋の主要な国・地域で展開されている高等教育政策を概観し、21 世紀高等教育の方向性を考えます。		
2020 年 1 月	動画 学生理解と学生発達	岡田 有司 東北大学 准教授	5.0*	学生には以前にもまして様々な能力が求められるようになり、学生の成長における大学教育の役割に関心が高まっています。こうした動向を背景に、国内では近年学生調査が広まりつつあり、大学教育と学生の発達の関連が検討されるようになってきました。本セミナーではそこでの知見も踏まえつつ、学生の発達を促すために重要な視点について理解を深めていきます。		

開講時期	科目履修（必修 75 時間） （必修科目 60 時間及び選択科目 15 時間）				フィールドワーク （必修 35 時間）	アクションラーニング （必修 70 時間）
	科目名	講師	時間	概要		
2020 年 2 月	 認証評価と内部質保証	土屋 俊 大学改革支援・ 学位授与機構 特任教授 工藤 潤 大学基準協会 事務局長 伊藤 敏弘 日本高等教育評 価機構事務局長 ／評価研究部長	5.0*	機関別認証評価は第 3 期を迎え、内部質保証は重点評価項目としてみます重要視されています。本セミナーでは、3 つの認証評価機関から講師陣をお招きし、「内部質保証」の考え方を今一度整理し、内部質保証を「システム」として構築し、機能させていくとはどういうことかについて、その実践や課題を学びます。	  <div data-bbox="1659 778 1816 992" style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center;"> 海外現地 調査¹ プログラム 開設期間内 20.0 時間 </div>	
2020 年 3 月	 研究政策と知的財産戦略—大学における研究成果の取扱い—	玉井 克哉 東京大学 教授	5.0*	研究は大学における中核的な活動ですが、近年、急速に変容しています。基礎、応用中心の研究から開発研究や産学連携など新たな研究ニーズが出現し、公共財としての研究から私的材としての性格も強くなっています。多様な社会的需要と大学の使命を調和した研究戦略はどうあるかについて論じます。		
2020 年 4 月	 グローバル化する高等教育における国際化戦略・政策・実践	太田 浩 一橋大学 教授	5.0*	社会経済のグローバル化を背景に、日本の大学においても国際化と質の問題が問われています。政府や産業界からグローバル人材の育成・輩出への要請が高まる中、我が国の大学はいかにグローバル化に対応すべきでしょうか。そのために推進されている政策や実践について、アジア太平洋諸国の政策動向も視野に入れながら考えます。		
2020 年 5 月	選択科目リスト**から 1 科目を選択		5.0*			
2020 年 6 月	選択科目リスト**から 1 科目を選択		5.0*			
2020 年 7 月	選択科目リスト**から 1 科目を選択		5.0*			

開講時期	科目履修（必修 75 時間） （必修科目 60 時間及び選択科目 15 時間）				フィールドワーク （必修 35 時間）	アクションラーニング （必修 70 時間）
	科目名	講師	時間	概要		
2020 年 9 月 集中セミナーⅢ	アカデミックリーダーのためのインストラクショナルデザイン	鈴木 克明 熊本大学 教授	5.0*	インストラクショナルデザインとは、学習ニーズの分析とシステムティックな授業の設計を行うことです。本セミナーでは、ワークショップを通して、より良い学習の環境を総合的にデザインすることを目指し、人はいかに学ぶか、学習とは何かという問題の解決の糸口となるであろうインストラクショナルデザインの基礎的知識を学びます。	海外現地調査 ¹ プログラム開設期間内 20.0 時間	課題研究Ⅲ プレゼンテーションⅢ 個人コンサルテーション
	高大接続と大学入試改革	宮本 友弘 東北大学 准教授	5.0*	2020 年度からセンター試験に替わる新テスト、英語 4 技能テストの導入、多面的・総合的評価を取り入れた個別大学試験など、大学入試制度は大きく変わります。従来型の知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力がより重視され、日本の教育全体において学力観や教育方法の抜本的見直しが求められています。高大接続の観点からも、新しい入試制度について、大学はどのように動いていかなくてはならないのか、具体的な方法や課題について考えます。		
2020 年 12 月 集中セミナーⅣ	/					

フィールドワーク（必修 35 時間）					
開講時期	科目	内容	時間	概要	
プログラム 開設期間内 (1 年目を推奨)	国内大学調査	調査準備（情報収集・調査項目策定・アポ取り）	3.0	各受講者の改革課題にとって参考となる取組みを先行的に進めている国内大学を訪問し、フィールドワークを通して実践的に学びます。	
		訪問調査	4.0		
		国内大学調査報告書作成	8.0		
		合計時間数	15.0		

開講時期	科目	内容	時間	概要
プログラム 開設期間内	海外現地調査 ¹	調査準備（情報 収集・調査項目策 定・アポ取り）	3.0	受講者は、各自の改革課題テーマにかかわる職能団体の国際ネットワーク会議や学会、ワークショップ、セミナーへの参加、または海外の大学や関連機関などでの訪問調査を行います。
		現地調査	9.0	
		海外現地調査 報告書作成	8.0	
		合計時間数	20.0	

1：海外現地調査は原則必修ですが、やむを得ず渡航できない事情がある場合は理由書を提出し、認められた場合に限り選択科目**4科目の履修に振り替えることができます。

アクションラーニング（必修 70 時間）				
開講時期	科目	講師（予定）	時間	概要
集中セミナーI	イントロダクション ²	野田 文香 東北大学 准教授	—	本プログラムの目的、概要、特徴、進め方について説明を行い、受講のレディネスを高めます。
集中セミナー I～IV	プレゼンテーション (5.0*4)		20.0	集中セミナーにおいて、各受講者の改革課題とそれに対する取組みについてプレゼンテーションを行い、アドバイザーや受講者全体で議論を行います。
集中セミナー I～IV	個人コンサルテーション (2.0*4)		8.0	アドバイザーが各受講者に対面でコンサルテーションを行い、改革案の作成・実行について助言・支援します。
集中セミナーI	課題研究 I		12.0	各受講者が設定した改革課題について改革案を策定・実行し、その結果の省察を踏まえて実現可能性を段階的に高めていきます。課題研究 I～IV を踏まえ、上記のプレゼンテーション／コンサルテーションが実施されます。
集中セミナーII	課題研究 II		8.0	
集中セミナーIII	課題研究 III		8.0	
集中セミナーIV	課題研究 IV		14.0	

2：イントロダクションは時間数をカウントしません。

選択科目** (3科目を選択：必修 15時間)

1：海外現地調査と振り替える受講者は更に4科目(20時間)を選択

開講時期	授業科目	講師(予定)	時間	概要
<p>プログラム 開設期間内 (2020年5～7月は 毎月1科目、計3科 目受講。海外現地調 査との振替希望者は 別途指定期間内に実 施)</p>	<p>【動画】 大学教育改革のトレンド と日本が目指すべき21 世紀の学士課程教育像</p>	<p><u>小笠原 正明</u> 北海道大学 名誉教授</p>	5.0*	我が国の大学教育は現在、急速な改革の中にあります。マス化・ユニバーサル化やグローバル化・知識社会化が、教育内容・方法の質的変容を迫っているからです。本セミナーでは、国内外における大学教育改革のトレンドを踏まえつつ、特に21世紀日本が目指すべき学士課程教育のあり方について論じます。
	<p>【動画】 特色ある大学を創るため に「理念駆動型」の組織 マネジメントを</p>	<p><u>柳澤 康信</u> 岡山理科大学 学長</p>	5.0*	学長を中心としたガバナンスの必要性が指摘されていますが、日常レベルの教学マネジメントには、執行部や経営層だけでなく、教員や職員の幅広いメンバーによる参画が求められ、とりわけ教職協働の推進が求められています。大学職員に期待される専門的役割も踏まえつつ、教職協働のあり方について考えます。
	<p>【動画】 国立大学のガバナンスと リーダーシップ</p>	<p><u>吉武 博通</u> 筑波大学 教授 (収録時)</p>	5.0*	政府財源が逼迫する中、国立大学は法人化以降、機関運営の効率化が要請されるようになり、経営・教学の両面で戦略的かつ効果的なガバナンスが必要になっています。さらに、学長によるリーダーシップが発揮できる体制の整備も求められています。本セミナーでは、国立大学においていかなるガバナンスとリーダーシップが必要なのかについて考えます。
	<p>【動画】 私立大学のガバナンスー 事例にみるその多様性と 可能性ー</p>	<p><u>大森 昭生</u> 共愛学園前橋国際大学 学長</p>	5.0*	18歳人口の減少を背景に日本全体で4割強の私立大学が定員割れを起こすなか、私立大学の統合を含めた議論も展開されるようになりました。特に地方所在の中小の私立大学の経営が厳しさを増すなか、ガバナンスの強化・高度化が必要になっています。本セミナーでは、新規の取組みで全国的に注目を集める私立大学の経験を踏まえ、私立大学ガバナンスの可能性を考えます。
	<p>【動画】 大学カリキュラムの構造 と編成原理</p>	<p><u>吉田 文</u> 早稲田大学 教授</p>	5.0*	大学のカリキュラムは、多様な学問分野の内的な構造や論理を踏まえつつ、教育の目的・内容・方法が統合的に編成される必要があります。本セミナーでは、日米の大学における一般教育(教養教育)カリキュラムを事例に、大学カリキュラムの構造と原理について学びます。
	<p>【動画】 世界における高等教育の 質保証の到達点と課題</p>	<p><u>深堀 聡子</u> 国立教育政策研究所 高等教育研究部長 (収録時)</p>	5.0*	2000年代以降、世界的に高等教育質保証の制度化や実践の多様化が急速に進みましたが、それは国家的枠組みにとどまらず、近年では欧州やアジア太平洋地域等では地域的枠組みも発達してきています。特に欧州のチューニングでは専門分野別に学習成果(コンピテンス)に基づく質保証の実践が展開されています。本セミナーでは、そうした到達点と今後の課題について考えます。
	<p>【動画】 IRによる教学データの 活用手法</p>	<p><u>浅野 茂</u> 山形大学 教授</p>	5.0*	学生による授業評価をはじめ、学生の生活実態調査、達成度調査、卒業生・雇用者に対する満足度調査など様々な形態での情報・データの収集・分析を行うことができるIRですが、日本の大学におけるIRは漸く市民権を得始めたところです。本セミナーでは、特に教学マネジメントや意思決定に資するIRの手法とその有効活用について学びます。

開講時期	授業科目	講師（予定）	時間	概要
<p>プログラム 開設期間内 (2020年5~7月は 毎月1科目、計3科 目受講。海外現地調 査との振替希望者は 別途指定期間内に実 施)</p>	<p>動画 大学における教育と学習 の評価</p>	<p><u>木村 拓也</u> 九州大学 准教授</p>	5.0*	<p>大学における学習評価の手法として、アセスメントテスト、ルーブリック、ポートフォリオなどが挙げられます。本セミナーでは、これらの評価手法について学ぶとともに現在の活用事例から自学における活用について考えます。</p>
	<p>動画 大学生のクリティカルシンキングの育成</p>	<p><u>楠見 孝</u> 京都大学 教授</p>	5.0*	<p>クリティカルシンキングは、大きく分けると論理的に考えることとリフレクション（省察）の2つがあります。事象を多面的にとらえ、論理的・科学的に正しい情報に基づいて考え、自分の行動について省察することで、次にどうしたらいいかという建設的な思考へと結びつきます。こうした手順を踏んだ思考力を学生に身につけさせるにはどうすればいいのかについて考えます。</p>
	<p>動画 研究評価の手法とマネジメント</p>	<p><u>林 隆之</u> 大学改革支援・ 学位授与機構 教授（収録時）</p>	5.0*	<p>大学の主要な機能の一つである研究活動には近年、社会から説明責任が強く求められるようになり、その評価のあり方が問われるようになってきました。また、国内外における当該大学の名声に影響を与える研究評価は、機関戦略の点からも重要性を増しています。本セミナーでは、研究評価の手法とそれに基づくマネジメントについて学びます。</p>
	<p>人生100年時代における リカレント教育ー大学 に求められる役割を考え るー</p>	<p><u>乾 喜一郎</u> 株式会社リクルート ライフスタイル</p>	5.0*	<p>人生100年時代といわれる少子高齢化社会において、何歳になっても学び直しができる「学び続ける社会」を見据えた教育環境の整備が求められています。しかしながら、現在の日本において、教育と職業間を柔軟に行き来できる条件や、社会人の学習意欲、コストや時間の確保など、リカレント教育を叶えるための環境整備が十分に整っているとは言い難い現状です。本ワークショップでは、日本において、社会人の学び直し、生涯学習をめぐる現在の動向を概観し、大学に求められる役割と課題について議論します。</p>
	<p>大学におけるリスクマネ ジメントと広報活動</p>	<p><u>駒橋 恵子</u> 東京経済大学 教授</p>	5.0*	<p>近年、大学の不祥事を伝える報道が増えています。研究不正や入試を取り巻く問題、教職員や学生の問題行動、また組織ガバナンスの機能不全など、社会的信用を失墜しかねない事件は、大学名とともに大々的に報道され、社会にネガティブな影響を与えます。不祥事対策として、大学にはどのような仕組みが必要であり、社会に対してどのような対応をとるべきでしょうか。本セミナーでは、広報活動の観点も含め、大学に必要なリスクマネジメントのあり方について学びます。</p>